

外に学び、つくり直すための10冊

未来へつなぐ社会をつくるために、日本の内に留まらず、外に出て、学び、
既存の方法をつくり直すことが問われています。
今号で紹介した事例の理解をより深める助けとなる10冊を選びました。



6 『質的イノベーション時代の思考力』 ——科学技術と社会をつなぐデザインとは』

モノがあふれている現代社会では、「量的イノベーション」から「質的イノベーション」への方向転換が求められている。著者は、そのために必要な「デザイン力」は、従来の「問題解決」型ではなく、「構成的デザイン」であることを、豊富な事例をもとに明らかにする。昨今注目される「デザイン力」とは何かを問い直す好著。

田浦俊春=著
勁草書房/2018年



7 『なぜイタリアの村は美しく元気なのか』 ——市民のスロー志向に応えた農村の選択』

歴史あるイタリアの美食文化を将来につなげていくには、努力も必要だ。60年代以降のアグリツーリズム、スローフードとスローシティ運動、農村景観の保全と世界文化遺産登録が、美しく元気な村をつくりあげているという。農民が主体の活動と景観・歴史文化の保全が、経済開発に必要不可欠と捉えた一連の活動は、日本にも参考になる。

宗田好史=著
学芸出版社/2012年



8 『世界で最もクリエイティブな国デンマークに学ぶ 発想力の鍛え方』

世界一のレストランとして注目を集め、北欧料理の概念を刷新した「ノーマ」は、なぜデンマークで誕生したのか？ その仕掛け人を筆頭に、世界でも人気のLEGO、ロイヤルコペンハーゲンなどの事例から、第一線で活躍するデンマークの人々に焦点を当て、そのクリエイティビティの秘密に迫る。
クリスチャン・ステューディル、リーネ・タンゴー=著
関根光宏、山田英二=訳
クロスメディア・パブリッシング/2014年



9 『物語 オランダの歴史』 ——大航海時代から「寛容」国家の現代まで』

政治、経済、文化から日本との交流まで、オランダ史を専門とする著者の研究成果が1冊に。オランダの底力は、大航海時代の歴史だけで語り尽くされるものではない。数々の戦争やフランス革命の影響により没落を余儀なくされた「小国」が、20世紀以降、現代に至るまで、寛容を尊ぶ国として再生していく様を描く。

桜田美津夫=著
中公新書/2017年



10 『新しいグローバルビジネスの教科書』

グローバルビジネスは、かつての先進国のマルチナショナルなビジネスから、途上国の低所得者(BOP)層を含む広域分業のステージへと突入した。日本が巻き込まれていくグローバル化の流れとその本質を、豊富な事例や体験談を交えながら、多角的な視点から包括的に考察する。外にビジネスを広げるための「グローバル化」を目指すうえで、まさに参考になる良著。

山田英二=著
PHP新書/2015年



1 『省察的実践とは何か』 ——プロフェッショナルの行為と思考』

「省察」とは、単に反省し振り返ることではない。プロフェッショナルが現場との対話から知を生み出すプロセスであることを、著者は実際の行為や会話の分析によって解明する。そうした知のあり方を阻む組織学習の分析も行い、省察を促す大学や協働で探求する公共の場の必要性を説く。

ドナルド・A・ショーン=著
柳沢昌一、三輪建二=監訳
鳳書房/2007年



2 『多文化世界〔原書第3版〕』 ——違いを学び未来への道を探る』

グローバル化が進み多文化理解の必要性が求められるなか、個人や組織は、どのように違いを学び、行動すればよいのだろうか。76に及ぶ国や地域での価値観調査に基づき、多文化世界を分析する。17カ国語で翻訳された世界的ベストセラー。

G・ホフステード、G・J・ホフステード、M・ミンコフ=著
岩井八郎、岩井紀子=訳
有斐閣/2013年



3 『地域を活かすつながりのデザイン』 ——大阪・上町台地の現場から』

グローバル化や人口減少に揺れる地域で、どのように持続可能な「まち」づくりを行えばよいのだろうか？ 本書は大阪の歴史資源が集積した上町台地界隈でバックグラウンドの異なる主体が交わり新たな価値を生み出すダイナミズムに着目。ネットワークを軸にした未来型のまちづくりを提案する。具体的実践に基づく説得力ある一冊。

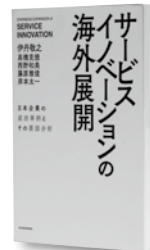
上町台地コミュニティ・デザイン研究会=編
創元社/2009年



4 『サービスイノベーションの海外展開』 ——日本企業の成功事例とその要因分析』

日本の産業の海外展開は、製造業からサービス産業へ拡大しつつあるが、高い成果をあげる日本企業はそう多くはない。今号で紹介した良品計画をはじめ、大戸屋、セコム、公文教育研究会の成功事例を論理的に調査・分析し、成功のカギを探っていく。そこから導き出された5つの要因とは？

伊丹敬之、高橋克徳、西野和美、藤原雅俊、岸本太一=著
東洋経済新報社/2017年



5 『幸せってなんだっけ？』 ——世界一幸福な国での「ヒュッゲ」な1年』

世界でも人気のファッション誌『マリ・クレール』英国版の元編集者であるイギリス人女性の著者が、自らの移住体験をもとに北欧デンマーク流の幸せな暮らし方のヒントを伝える。新しいライフスタイルとして欧米で注目を集める「ヒュッゲ」とは？ 経済指標だけでは測ることのできない、これからの時代の幸福を考えるための格好の書。

ヘレン・ラッセル=著 鳴海深雪=訳
CCCメディアハウス/2017年

